

◎旗振支部

◆平成29年夏山行 8月27～28日

「取立山」登山と越前勝山

旗振支部 瀬川 滋

今回登る取立山は福井と石川の県境に位置する。山名の由来は、江戸時代の中期に加賀藩と勝山藩が藩の境界を取立山の稜線と定めたが、勝山側の地に加賀藩の村から焼畑農業を目的とする季節入植者が増えたため、勝山藩は彼らを加賀者と言って厳しく年貢を取り立てたことによるという。

27日に貸切バスで垂水を出発。合計27名で阪神高速、名神・北陸高速・中部縦貫道を経て勝山市に向かう。参加者が想定人数を超えたが、コスト削減のため当初手配のままのバスで出掛けたので、肩摺り合う窮屈さだったが、却って車内は和気藹々ムード。予定より若干早く着いたので、明治38年から「機屋(はたや)」として操業していた建物を使った「ゆめおーれ勝山」に寄った。その昔繊維の町として名を馳せた絹織物「羽二重」の製造工程を、昔からの機械が実際動くのを見学した。今は鄙びた雪深いこの町に全国から女子工員が集まりとても賑わったといい、日本が殖産興業で先進国入りしたルーツを



羽二重の歴史を背負って稼動する織機

目の当たりにした。

取立山は水芭蕉の群生と白山の展望が有名だが、水芭蕉は時期外れなので白山展望がメイン。ならばと昼食後その霊峰白山を開山した奈良時代の名僧・泰澄が創建した白山平泉寺を訪ね、予めお願いしてあったボランティアガイドの方に案内して貰った。古来白山は富士山、立山と並ぶ日本三名(霊)山に数えられる信仰の山で、その登山道は禅定道と呼ばれ、この寺からの越前禅定道、石川県白山市・白山比咩神社からの加賀禅定道、岐阜県郡上市・長滝白山神社からの美濃禅定道の3つのルートがあり、多くの信者で賑わったという。江戸時代に白山山頂の帰属が越前と加賀の間で問題になったが、幕府の裁定で山頂が平泉寺領と定められ、この寺が白山頂上本社の祭祀権を獲得した。ただ明治になって廃仏毀釈の動きが強くなり、寺を護るために、神仏習合の伝統から境内に祀られていた神社を表に出して、正式名称は平泉寺白山神社となっている。

広い境内を歩いてみると一面美しい苔で埋め尽くされている。まるで苔の絨毯が敷き詰められているようで、ふかふかの苔で覆い尽くされた深い緑の空間はとても幻想的。



苔・・・で幻想的な平泉寺境内

美しい苔を見ながら杉の大木が立ち並ぶ境内を奥へ奥へと歩いていくと神社の本社、さらに奥に進むと三ノ宮と歴史を感じる建物が鎮まっており、その奥から越前禅定道が始まっており、神秘的な光景に目を奪われてしまう。



鎮まる神社本社

この景観に司馬遼太郎は「街道をゆく 18 越前の諸道」の中で、「十余年前、ここにきたとき、広い境内ぜんたいが冬ぶとんを敷きつめたようにぶあつい苔でおおわれていることに驚いた。苔の美しい季節であったからこそそう思ったのだが、京都の苔寺の苔など、この境内に広がる苔の規模と質から見れば、笑止なほどであった」と絶賛している。私も同感であるが、つい最近の日経新聞の「何でもランキング・苔の名所」では、この寺が全国で7位なのに対し苔寺は4位となっていた。

近年福井といえば恐竜と言われる程恐竜が県のシンボルになっているが、その恐竜の博物館が勝山にあるというので、続いて訪ねた。地下3階までの長いエスカレーターを下り、古い化石から順に上に登るに従い、年が新しくなっていく構造。勝山での発掘に限ら

ず世界各地の化石が収集・展示してあり、広い館内に所狭しと飾られた恐竜の骨格標本の大きさと多さに、こんなのが陸地を闊歩していたのかと圧倒された。夏休み最後の日曜日ということもあって子供連れの観覧者が溢れていて、ちびっこの恐竜ブームを改めて感じた。



恐竜博物館にて

宿舎は勝山で人気 No1 の「勝山ニューホテル」。高級ビジネスホテル並みの設備で、バイキング形式の夕食も Good。とても山行での宿舎とは考えられない。夕食後部屋に集って持参の酒と肴で談笑して就寝。

翌28日。起床してまず天気予報をチェックすると曇り後晴れ。昨年の乗鞍が悪天候だっただけにヤレヤレ。朝食後バスで登山口へ。



登山口での点呼・ストレッチ

登山道は頂上に直登するコースと、大滝・こつぶり山経由で頂上に至る大滝コースがあり、当初大滝コースを上って直登コースを下る縦走を考えていた。登山口にはメンバーの1人の現地在の友人が待っていており、昨日コースの下見をしてくれていた。一昨日に雨が降り、大滝コースは大滝の上の岩を登る所が荒れているという。直登コース往復も考えたが、思案の未予定通りで決行することとした。体調不良でバスで待機する1人を除いた26名でスタート。コースの前半部は殆ど水平の歩き易いトレッキングコースが続く。やがて水音が聞こえて来、徐々に音が大きくなって大滝が現れる。落差は30m位ありそう。水は雨後ということもあってダイナミックに流れ落ち、なかなかの迫力。



ダイナミックに流れ落ちる大滝

この大滝の右側を巻きながら、急なロープ付き岩場を登っていく。岩が濡れていて滑り易いので慎重に慎重に登る。昨日よりは歩き易いという。登り切った所で沢を渡る。増水時は渡るのが難しいかも。渡渉後、反対側の尾根へ。谷の向かい側に取立山山頂を見ながら登っていく。やがて尾根に出会う。尾根を緩やかに暫く歩いて後ろを振り返ると、今迄歩いてきた尾根道が見え、その奥には勝山市

街が広がる。特に昨日見学した恐竜博物館の銀色の屋根のド派手な建物が目立つ。割と雲が多いので比較的日差しが抑えられており、熱暑に登るより楽。ただ夏山から秋山への端境期のため路傍に花が少ないのが寂しい。



路傍で見かけたイワタバコ

途中から階段となり、背後を振り返ると、越前の山々が望める。

そろそろ頂上かと思って歩くとこつぶり山頂(標高 1264m)。頂上は意外と広い。ここで正面に白山が見えるはずなのだが、残念ながら頭に雲を被っていて感激は少ない。



こつぶり山頂からの頭を隠す白山

小休止後、取立山へ向かう。鞍部に向かって下っていくと、水芭蕉群生地へ分岐する道があるが、パスして真っ直ぐ進むと、避難小屋が見えてくる。20人程収容出来そう。

ここを過ぎて暫く登ると取立山頂上(標高 1310m)。



取立山頂上にて

こつぶり山から歩いて来る間に顔を見せてくれることを期待していた肝心の白山頂部は相変わらず雲隠れのまま。あ～あ。暫く休憩して下山。

直登コースを下る。このコースは道幅が広く、特に変わり映えのない単調な景色が続く。メンバーの1人の体調が優れず、先頭からか

なり引き離される。仲間のA子さんが懸命のサポートをしてくれる。感謝感謝。お蔭で何とか登山口に辿り着けた。全員何事もなく下りてこられてホッとしたものだ。

全員揃ってバスで昨日昼食した店に。店名を改めて見ると、今日見ることの出来なかった「水芭蕉」。せめて店名だけでもという幹事の粋な計らいか。ここには温泉もあり、まず汗を流す。そして昼食。軽く添えられているビールが格別。温泉とビールが登山の疲れを吹っ飛ばしてくれる。

食後バスで、名神の渋滞を嫌って舞鶴・若狭道経由で帰神。取立は翌日は雨だったということで、今年の北陸が梅雨明け後雨ばかりという中、我々が行った時だけ降らなかったというから、白山頂部が見えなかったとはいえ最高の山行であったと言えよう。